

一般社団法人 大学英語教育学会 (JACET)

第 32 回 (2016 年度) 中部支部大会プログラム

The JACET 32nd (2016) Chubu Chapter Annual Convention

大会テーマ

英語力向上のための多様なリソース活用の新展開

New Perspectives on Activating a Variety of Resources for Enhancement of English Abilities



2016 年 6 月 4 日 (土)

開会時間：午前 10 時 30 分

愛知県立大学 長久手キャンパス

〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1 5 2 2-3

一般社団法人 大学英語教育学会(JACET)

第 32 回(2016 年度)中部支部大会

大会テーマ:「英語力向上のための多様なリソース活用の新展開」

New Perspectives on Activating a Variety of Resources for Enhancement of English Abilities

一般社団法人大学英語教育学会 (JACET) 第 32 回 (2016 年) 中部支部大会

- 日 時: 2016 年 6 月 4 日(土) 10:30-17:55
- 会 場: 愛知県立大学 長久手キャンパス
〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間1522-3 電話:0561-64-1111(代)
- 受 付: 10:00～ S201 前
- 大会本部: 英米学科共同研究室

●プログラム

10:30-10:40	開会行事	S201
	支部長挨拶	大森裕實 (愛知県立大学)
	会場校代表挨拶	吉池孝一 (愛知県立大学外国語学部長)
10:45-11:45	研究発表	S101
11:45-12:35	ワークショップ	S101
12:35-13:40	昼食休憩	
12:40-13:10	中部支部役員会	英米学科共同研究室
13:40-14:00	支部総会	S201
14:00-15:30	特別講演	同上
15:50-16:55	シンポジウム第一部	同上
17:05-17:45	シンポジウム第二部	同上
17:45-17:55	閉会の辞	鈴木達也 (南山大学)
18:15-	懇親会	生協食堂

後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・長久手市教育委員会

研究発表 **10 : 45 - 11 : 45** **S101**

10:45-11:15

司会 村田泰美(名城大学)

スピーキングタスクの繰り返しの分散学習効果に関する予備的調査—タスクの実施間隔はどのように発話に影響するのか— (p. 4)

小林真実(名古屋大学大学院生)

11:15-11:45

司会 大石晴美(岐阜聖徳学園大学)

読解習慣と読解力の関係: 日本人大学生英語学習者を対象に (p. 4)

吉川りさ(広島大学)・梁 志鋭 (名古屋学院大学)

ワークショップ **11 : 45 - 12 : 35** **S101**

講師陣 塩澤 正(中部大学)[兼司会] 三井るり子 (三修社)

北尾泰幸 (愛知大学) 朝日英一郎 (朝日出版社)

「教員サイドが求める Textbook と出版社サイドが求める Textbook—テキスト出版までの Knowhow (準備から出版まで)」

支部総会 **13 : 40 - 14 : 00** **S201**

司会 Leah Gilner(文京学院大学)

特別講演 **14 : 00 - 15 : 30** **S201**

司会 今井隆夫(愛知教育大学)

「認知言語学から見た英語教育の展望」(p. 5)

山梨正明(関西外国語大学教授・京都大学名誉教授)

休 憩 **15 : 30 - 15 : 50**

シンポジウム「英語力向上のための多様なリソース活用の新展開」

司会 大森裕實(愛知県立大学)

第一部 15:50-16:55 S201

講演「オープンデータによる英語構文事例検索システムの可能性:TED Corpus Search Engine を例として」(p. 5) 長谷部陽一郎(同志社大学准教授)

講演「コンピュータネットワークを利用した英語学習とリソースの形成」(p. 6) 尾関修治(名古屋大学教授)

第二部 17:05-17:45 S201

合同ディスカッション(山梨正明・尾関修治・長谷部陽一郎・大森裕實)

閉会の辞 17:45-17:55

副支部長挨拶 鈴木達也(南山大学)

懇親会 18:15- 生協食堂

司会 藤原康弘(名城大学)

発表要旨

スピーキングタスクの繰り返しの分散学習効果に関する予備的調査 ―タスクの実施間隔はどのように発話に影響するのか―

小林真実 (名古屋大学大学院生)

本研究の目的は、外国語のスピーキングの繰り返し練習における分散学習の効果検証である。先行研究では、同じタスクを繰り返した後に別のタスクを行った場合の発話の向上が指摘されている (Ahmadian, 2011 他)。しかし研究により練習を行う間隔は異なり、研究結果は実施間隔の違いによる影響を受けている可能性もある (Fukuta, 2016)。学習間隔については、語彙や文法等の記憶保持において、時間を空けて学習する分散学習は時間を空けない集中学習より効果が高いとされる (Nakata, 2015 他)。一方、大学生を対象としたスピーキング練習に関する検証はほとんどなされていない。本研究は、スピーキングの繰り返しタスクの後に別のタスクを行った時の発話において、分散学習は集中学習と比べて文法的正確さが向上するかを検証する。大学生 (n=10) を一週間の間隔を空けて分散学習を行う実験群 (n=5) と集中学習を行う比較群 (n=5) とに分け、イラスト教材を英語で説明する予備調査を行った。両群の事前・事後テストの発話を比較したところ、個人差は認められるが実験群の向上率は比較群に比べ総合的に高かった。通常一週間の間隔で行われる大学の英語の授業に対して予備調査結果が有する教育的示唆も報告する。

読解習慣と読解力の関係: 日本人大学生英語学習者を対象に

吉川りさ(広島大学)・梁 志鋭 (名古屋学院大学)

英文読解力を構成する能力として、語彙力や文法力などが強い影響力を持つということは広く知られている。しかし、語彙力や文法力テストを用いて測定する個人の能力のほかにも、英語学習そのものに対する動機や態度などのような要因も深く関わっていることも報告されている。本研究では、後者の要因の中でもとりわけ、学習者個人における英語接触の程度の違いに焦点を当て、勉学以外で接触する英語インプット量と英文読解力および、語彙力や文法力との関連性を調査した。

データ分析には、日本人大学生英語学習者 54 名の質問紙調査への回答と、英文読解力テスト、語彙力テスト、文法力テストのスコアを用いた。質問紙を通して、娯楽目的で読む英語や英字新聞への接触度や、ソーシャル・ネットワーキング・サービスでの英語あるいは日本語の使用度を調査した。実験結果から、勉学以外で接触する英語インプット量は、英文読解力およびそれを支える語彙力と文法力の成績と相関関係が認められたことから、個人の読解習慣は英文読解力を捉える一つの指標になると考えられる。

<特別講演> S201

認知言語学から見た英語教育の展望

山梨正明(関西外国語大学教授・京都大学名誉教授)

認知言語学のアプローチでは、言語能力は、生物の延長としての人間の身体性を反映する一般的な認知能力によって動機づけられ、創発的に規定される。換言するならば、認知言語学のアプローチは、いわゆる言語能力に関わる知識は、五感、運動感覚、イメージ形成、視点の投影、カテゴリー化、参照点能力、等に関わる人間の一般的な認知能力から独立した自律的な言語知識としては規定できないという視点に立っている。この視点は、身体性に関わる前-表象的、前-記号的な経験の場から、言語知識の発現と分節化のプロセスを根源的に問い直していく立場を意味する。この新しい言語学のアプローチは、母語の言語能力の問題だけでなく、外国語の習得に関わる言語能力と言語運用の問題の解明にも新たな知見を提供する。本講演では、特にこの後者の問題への認知言語学の適用の可能性を考察することにより、英語教育の新たな探求の方向を探っていく。

講師紹介

山梨正明(やまなし まさあき)

カリフォルニア大学、B.A. (1971、言語学)、ミシガン大学、M.A. (1972、言語学)、ミシガン大学、Ph.D. (1975、言語学)。

専門の研究テーマ:主に意味論、記号論、語用論。

所属学会:アメリカ言語学会、日本認知言語学会、日本語用論学会、日本言語学会、日本認知科学会、等。日本語用論学会前会長、日本認知言語学会前会長。

主要著書:『生成意味論研究』(開拓社、1977、市河三喜賞)、『比喩と理解』(東京大学出版会、1988)、『ことばの認知空間』(開拓社、2004)、『認知構文論 ―文法のゲシュタルト性』(大修館書店、2009)、『認知意味論研究』(研究社、2012) など多数。

<シンポジウム> S201

英語力向上のための多様なリソース活用の新展開

第一部

I. オープンデータによる英語構文事例検索システムの可能性: TED Corpus Search Engine を例として 長谷部陽一郎(同志社大学)

近年、様々な分野でオープンデータが注目されている。オープンデータとは著作権による強い制限なしに広く開かれた利用が可能なデータを指す。すでに自然言語処理やコーパス言語学の分野ではそのようなデータ(例えば Wikipedia の多言語テキスト)を用いた研究が盛んに行なわれているが、英語教育でも様々な活用する方法があり得る。例えば大量の英語プレゼンテーション動画とそのスクリプトから重要構文の事例を採取し、検索・閲覧可能なデータベースとして構築すれば、これまでになかったスタイルでの学習が可能になる。そしてこのような観点から開発されたシステムとして TED Corpus Search Engine (TCSE) がある。本発表では TCSE の設計や機能の紹介を通じ、構文学習を始めとする様々な英語教育の領域でオープンデータを用いる利点と今後検討すべき課題について論じていきたい。

II. コンピュータネットワークを利用した英語学習とリソースの形成

尾関修治(名古屋大学)

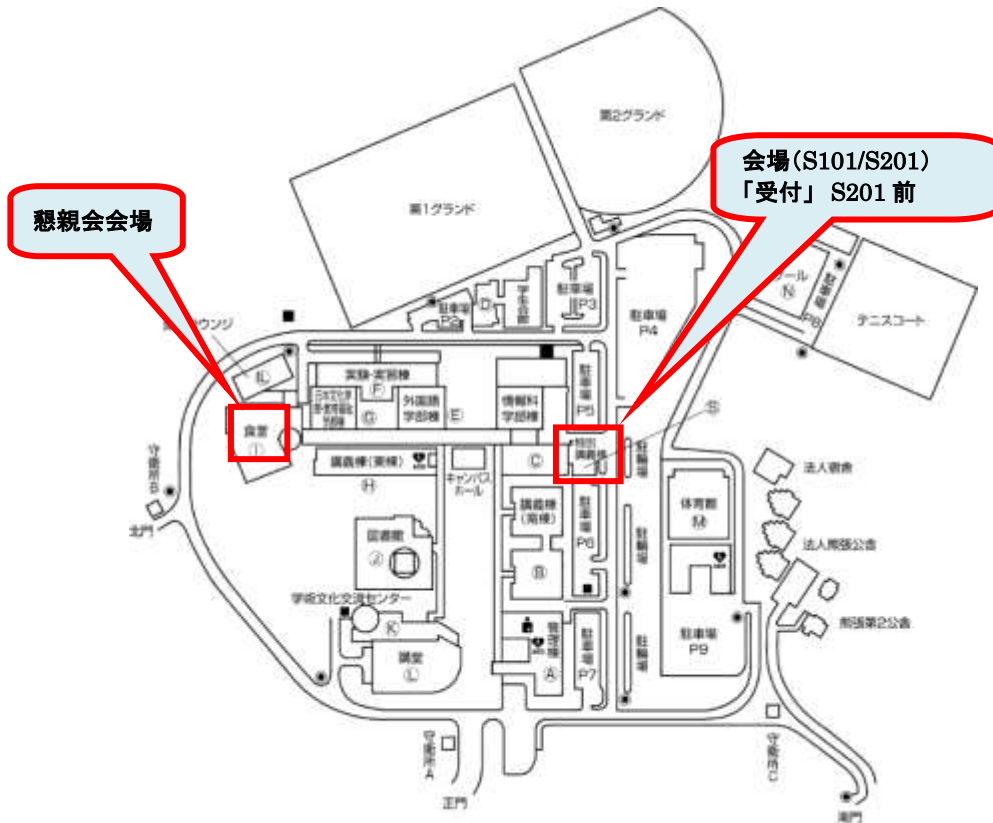
外国語としての英語教育の現場では比較的早くから学習リソースをコンピュータを利用した教材やインターネットの利用に求めてきた。音声教材や文字教材の素材をインターネットに求め、教室で活用する事例は広く見られる。その一方で 1990 年代半ば以降の世界的なインターネット利用の普及を受けて、コンピュータネットワークそのものが人々のコミュニケーションの場となり、とりわけ外国語使用の主な場となってきている。

コンピュータネットワークを使用した言語使用はこれまでのコミュニケーションメディアに比べて集積的であり再利用や検索性が高いのが特徴であり、言い換えれば、そこでの言語使用そのものが新たな言語使用のリソースとなっている。そのような意味でコンピュータネットワークは単に教材を取り出す学習リソースではなく、学習者自身の活動が蓄積されていく参加型の場であり、それを意識した活動の企画が教授者に求められる。

ネットワーク利用英語教育の歴史を振り返るとともに、提案者自身の授業事例を紹介し、学習者の活動の蓄積が他の学習者への刺激となり知識の共有が行われること、そこでの教授者の関わり方について議論する。

● 大会会場 マップ

愛知県立大学 長久手キャンパス



愛知県立大学

〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3 (長久手キャンパス)

TEL: 0561-64-8825 FAX: 0561-64-1107 (いずれも文系教員センター共用)

<http://www.aichi-pu.ac.jp>



● 懇親会のご案内

懇親会は事前予約制です(会費 4,000 円)。多くの方々のご参加をお待ちしています。予約は JACET 中部支部のホームページにアクセスしていただき「支部大会」ページにある「懇親会申込」のリンク先でお申し込みください(予約締切り 5 月 27 日)。

● 事務局より

- * 非会員の参加者は資料代として一人につき 1,000 円の負担をお願いします(なお学生の方は学生証の提示で無料とします)。
- * 出版社の展示は S101 前スペースで行います。
- * 各発表会場には Windows PC を用意しますので、持参していただく必要はありません。ただし Mac を持参され使用される場合は VGA アダプタをお持ちください。
- * 発表者はレジュメを各自 40 部程度ご用意ください。
- * 当日、中部支部役員会を 12 時 40 分から英米学科共同研究室(E304)で開催します。役員はご参集ください。
- * 大会当日学内の食堂は休業となります。大学周辺には徒歩で行ける飲食店やコンビニがありません。昼食のご用意は各自でお願いします。
- * 当日会場校同キャンパスにて午後 2 時から学術講演会が行われます。公共交通機関及び駐車場の混雑が予想されます。ご注意ください。
- * 大会についてのご質問は、中部支部事務局(下記)までメールでお尋ねください。

JACET 中部支部紀要編集委員会からのお知らせ

『JACET 中部支部紀要』第 14 号 投稿原稿募集
締切り:2016 年 9 月 10 日(必着)
投稿規程など詳細は必ずホームページで最新情報をご確認ください。

問合せ先: JACET 中部支部事務局

一般社団法人大学英語教育学会(JACET)中部支部事務局

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57 番地

名古屋外国語大学 佐藤雄大研究室内

t-sato@nufs.ac.jp